

事業者向け

放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			部屋の使い分けをわかりやすいよう視覚情報で提示している。
	2	職員の配置数は適切であるか		○		あらゆる媒体を利用して求人を継続する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		子どもの体格に応じて踏み台等も用意している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	◎			パート職員含めて毎日振り返りシートを記入している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	◎			年1回のアンケートを実施している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	◎			29年度よりホームページに情報公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			▲	第三者評価は実施していない。今後の検討課題。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	◎			月1回の職員全体会議に学習の時間を設けている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			初回アセスメントの他、事業所書式のサポートブックを毎年記入して頂いている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		一部導入したが広められず。今後の検討課題。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	◎			週1回の会議で検討している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			定期的ミーティングでアイデアを出し合って見直しをしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○		定期的ミーティングでアイデアを出し合って見直しをしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			一人ひとりの意欲が引き出せるよう意識している。集団活動は年齢も考慮している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	◎			始業前の打ち合わせの他、紙での活動計画に目を通してサインするよう指示している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	◎			パート職員含めて毎日振り返りシートを記入している。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	◎			特に重要なことはクラウド上で共有している。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			通常のルーティンの中で実施している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			結果的にそうなっているがガイドラインを意識するまでは至らず。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	◎			原則は児童発達支援管理責任者が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			必要があれば担任の先生に電話する等情報共有に努めている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				該当児童無し。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○		就学後には連携が切れてしまうのが実態。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			△	法人内ではできているが、今後は他法人にも広げていくことが課題。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか			△	りんくす名古屋の主催共催する研修には積極的に参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			▲	現状そこまで手が回らないのが実態。その余裕を持てることが目標。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	◎			瑞穂、昭和両区の児童部会に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時には必ずひと言を実施している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			▲	個別に書籍やグッズの紹介をするにとどまる。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	◎			契約時に説明をしている他、随時質問を受けている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	◎			常時電話等での相談を受け付けている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			▲	保護者会は無いが、気楽に話れる場があれば良いというお声があった。

	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			この間に苦情は無いが忘れ物が多発した場合などには防止策を検討するなどしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			Facebookを活用している。
	35	個人情報に十分注意しているか	◎			書類の廃棄は処理業者も利用している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	◎			視覚情報を重視している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	◎			近隣にお誘いのチラシを配布するなどしている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			周知方法をさらに工夫する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			防災週間には災害伝言ダイヤルの体験利用も実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	◎			パート職員含めニュース記事共有するなど緊張感を絶やさないようにしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			組織的な共有が不十分。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			△	家族からの指示に留まる。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			特に重要なことはクラウド上で共有している。